

剣岳 北方稜線 2009/05/02 ~ 04

2009年5月2日 快晴：富山県警山岳警備隊事務所に入山届けをして、発信機「ヤマタン」を借りる。馬場島6:40発。雪が少なくブナクラ谷の下部は夏道を利用、ついでにコゴミ採取。上部は右股をつめて稜線へ10:45着。急な雪面をひたすら登り、キャンプ予定の赤谷山に12:50着。まだ早いので先に進み、赤ハゲ14:30。ここから先は岩と雪庇の境目を辿ることになる。明日の朝、雪の締まった時に通過することにして、赤ハゲ山頂を整地しテントを張る。毛勝三山の絶好の展望台。夕食にコゴミ入り炊き込みご飯。



05.02 09:16

PH-1 ブナクラ谷右股をつめる



05.02 13:24

PH-2 白萩山をトラバース:左端、赤ハゲ頂上でキャンプ



05.02 15:10

PH-3 赤ハゲ頂上キャンプ:剣岳山頂まで遠い



05.03 08:15

PH-4 白ハゲへの登り

3日 晴れ時々曇り：赤ハゲ5:40発。すぐ目の前の雪稜をスタカット40m。白ハゲの急な下りで念のためスタカット50m。岩混じりの下りを懸垂下降25mで大窓へ到着7:30。急な雪壁を登り、いくつかの岩峰を超えて巻いたりして、ブッシュ混じりの雪壁をスタカット50m登ると池平山。一昨年滑った東面の真っ白スキー天国とは大違いで、稜線上は切れ落ちている。50mの懸垂下降2回で小窓に到着11:50。再び急な雪面をひたすら登って小窓尾根上へ出る。威圧感のある小窓ノ王の肩の雪壁を懸垂下降50m。ガスも出てきて、神戸大2年生の石丸君いわく「奈落の底へ降りていくみたい」。三の窓14:00、5張ほどのテント村で賑わっている。クラストして蹴り込んで靴のつま先

第三回岡日嘎布山群学術登山隊トレ・ニング合宿

しか入らない池ノ谷ガリーを登り詰め、池ノ谷のコルにキャンプ 15:30。



PH-5 白ハゲの下り。慎重にスタカット



PH-6 剣岳



PH-7 池平山へのルート



PH-8 池平山の岩峰群



PH-9 小窓尾根から小窓の王を目指して



PH-10 小窓の王の懸垂下降

石丸君いわく「奈落のそこへ降りていくみたい」



PH-11 小窓の王、後続パーティの懸垂下降。



PH-12 凍った池ノ谷ガリーの登行。



PH-13 剣岳本峰に向けての雪稜



PH-14本峰への最後の急な雪壁

4日 曇り時々晴れ：池ノ谷のコルを5：30発。長次郎の頭付近の雪稜は思っていたより快適で、最後の急な雪壁をピッケル・バイルを頼りに登り切ると、剣岳山頂到着6：30。早月尾根上部の岩場でルンゼ内が氷化していたので懸垂下降25m。雪が安定していたのでほとんどの岩峰は池ノ谷側をトラバース。2750m付近のブッシュ混じりの雪壁を25m懸垂下降するが少し足りず、もう一回懸垂下降。9：00にやっと安全地帯の早月小屋に到着。ここからは、若者にとっては楽勝、中高年には苦行難行の下り。でも最後は可憐なカタクリの花群落が見送ってくれた。馬場島12：20到着。

途中、我々とは日程が合わず、1泊で剣岳山頂ピストンに入山する井上さん（神戸大山岳会会長）・近藤君（院生）パーティに出会う。

県警に下山報告。馬場島山荘で入浴￥500。渋滞の北陸道を敦賀で降りて、舞鶴自動車道へ乗り換えて帰宅。

第三回岡日嘎布山群学術登山隊トレ・ニング合宿

やっぱり剣は良いですね。北方稜線は藪、雪稜、岩峰と変化に富んだよいコースでした。
積雪量が少なく天候にも恵まれて、体力的にはきつかったですが思っていたよりハイペースでこなすことができました。

以上 山本 記



PH-15 剣岳山頂 (山本 矢崎 石丸)



PH-16 早月尾根のカタクリ群落がお見送り

以上 山本 記

(編集注記: 山本 恵昭氏は甲南大学山岳会会員、2009年岡日嘎布山群学術登山隊に参加予定)